

就学前の場面緘黙症児に対するグループセラピーの試み

心身障がい福祉センター 療育課

1. はじめに

「場面緘黙症^{ばめんかんもくしやう}」をご存知でしょうか？心身障がい福祉センター（以下、「当センター」）では、就学前のお子さんの様々な障がいの相談を受け付けていますが、ここ最近、場面緘黙症の相談が増えています。

緘黙は、家ではおしゃべりなお子さんが、家以外の場所（主に保育園や幼稚園等）で全く話さない、あるいは一部の人としか話せていない症状です。単なる「恥ずかしがり」「人見知り」で本人が「話さない」のではなく、「話せない」のです。不安症の一つで、「他の状況で話しているにもかかわらず、特定の社会的状況において、話すことが一貫してできない」（DSM-5より抜粋）等と定義されています。男児よりもやや女児に多い傾向が見られ、2～4歳頃に発症しやすく、日本の発現率は0.2～0.5%程度とされています。自閉スペクトラム症や知的発達症等を伴う場合もあります。

今回は、発達相談員が場面緘黙症児とその保護者のためのグループセラピーを試行した結果をご紹介します。

2. 対象児

当センターに、場面緘黙症の症状で相談に来所した未就学の親子を対象にしています。

3. 目的

- ① 場面緘黙症児にとって、家以外で安心して過ごしたり話したりする場所を作ること。
- ② 保護者が他の保護者と交流し、情報交換を行い、自身の心の安定を図ること。

4. 方法

① 親子教室（月1回）

親子（時にはきょうだい児も同伴）で参加し、事前に流れを伝えて不安を軽減しながら活動を行います（表1）。“話すこと”が目標ではなく、様々な手段で“自分で意思表示をすること（選ぶこと）”を大切に、達成感が得られるようにしています。

② 保護者座談会（2～3か月に1回）

家や保育園・幼稚園での様子や進路（主に学校）、家族の近況の報告、悩みや疑問等を話し合います。



【表1】活動例

種類	運動課題	表現課題	やりとり課題
目的	緊張をほぐす	自分なりに表現する	他の親子やスタッフと関わる
内容	風船運び、パン食い競争、白黒オセロ、ゴムとび、ジェンガ 等  ジェンガ（ソフトブロック）	製作（買物用のお金や財布）、ジェスチャーゲーム、なぜなぜクイズ等  ジェスチャーお題	かるたとり、宝探し、糸電話、お店屋さんごっこ、参加型パネルシアター 等  お店屋さんごっこ